



発行所 伊藤隆次  
印刷所 常磐新聞社  
社址 小名浜市常磐  
電話 二二二  
一ヶ月三十圓  
三ヶ月九十圓  
半年一百八十圓  
一年三百六十圓  
廣告料 一行五十圓

# 一夜の暴雨風

## 波浪は本港内を踏荒し

### 避難船十二隻は大破沈没 損害大体五十萬圓の豫想

昨十二月の心は實際化に役立たず午  
二十三日前一、二時の暴風は地獄の  
夕刻より下底に突き落されたやう  
暴風雨の悲惨の雰囲気包まれて  
名濱町として恐ろしき記録を破る警鐘、沈没の惨劇この  
有する辰巳時化となり夜の世ながらの生地獄と化した  
耽るにつれて暴風益々甚敷た、午前四時頃漸く静  
く小名濱港に避難の漁船数艘となつてきたが崖壁一面  
百隻は怒濤の爲め奔奔に任には大破船の無惨な屍は右  
せる外手の下しやうなき危に左に横たはり、涙なくし  
険状態と化しサイレン警鐘で正視出来ない残骸は揚  
は亂打して危急を告げても漁船十二隻の大破沈没の數  
アノ一と立騒ぐ外焦燥字を示してゐる

# 小名濱港の惨劇

昨二十三日夜半より二十四日未明と騒がし商港第二期  
日午前四時頃迄に掛けて暴風、漁港内防波堤の延長  
威を振つた陸風は波浪を漲をこの際急速に認めて着手  
へて數百圓を投じて築港して貰ひたいと現在の商港  
せる小名濱港は彼の暴風港では實際の役に立たぬ事  
にはその存在すら認められをば、陳情したばかり  
ぬ状態で港内は波浪の蹂躪である、これ迄も數次に涉  
に任す外手の下しやうなきつて陳情を重ねて居つた  
現状であつた僅か一瞬間に不完全な商、漁港は今次の  
一艘一万五千圓の工費を掛ような悲惨事を惹起する原  
けた漁船が十二艘も大破沈没となる事も如實に表示し  
夜の悲惨なる現況を見せつてゐる、この徹を再び踏  
けられなければならなかつたら、おそろく漁業者は或は  
た、総損害五十萬圓と注すは形を語るのであらう、縣の  
る惨状を呈した、小名濱町當局はこの際眞剣に實状を  
で幾日前の十九日に町議調査研究して商港漁港の完  
委員が助役先導で出陣縣知事と期するに一段の眞剣味  
事、總務部長、経済部長、土を以て對處された事を一

# 今次の被害、依て來る原因

## 縣當局の商港再認識の要

### 一夜一瞬にして五十萬圓損害

昨日に於ける簡易保險の商業方面の社債にも波及して  
「簡易保險」の指定、或は賠償の二鳥の効果も收めて國策に  
低廉なる供給等被保險者は協力せんとする機運は全國  
勿論國民一般の健康維持、各地に勃然として起つた  
の活躍で町村在郷軍人、婦  
人團、會社、工場、商店等が  
主体となつて應召又は出動  
したる者に對して自らが簡  
易保險の契約者となりその  
規定なる特別規定を制  
定して出動軍人軍属とその  
家族の経済擁護に一は事變  
取扱を施行して統後の護り  
ことである (前二(續))

# 堂々五十萬圓突破

## 燃然たる簡保業績

今日に於ける簡易保險の商業方面の社債にも波及して  
「簡易保險」の指定、或は賠償の二鳥の効果も收めて國策に  
低廉なる供給等被保險者は協力せんとする機運は全國  
勿論國民一般の健康維持、各地に勃然として起つた  
の活躍で町村在郷軍人、婦  
人團、會社、工場、商店等が  
主体となつて應召又は出動  
したる者に對して自らが簡  
易保險の契約者となりその  
規定なる特別規定を制  
定して出動軍人軍属とその  
家族の経済擁護に一は事變  
取扱を施行して統後の護り  
ことである (前二(續))

# 野犬撲殺

## 近頃は行なはれる

野犬は年々増加の勢を呈し、近頃は行なはれる  
撲殺を許可し各所に撲殺が  
行はれてゐるが、尚近く小  
名濱方面にも行はれる様  
の最も甚だしきは關形油店  
であるから飼主は鑑札等  
所有の犬が船舶用油店  
附近で野犬との別を判り  
シキリは撲殺に吞されて  
沈没(重油)は行衛不  
野犬撲殺

# 平局現金受拂時間延期

## 十一月より三日間

平局現金受拂時間延期  
十一月より三日間  
十一月五日より三日間  
十一月十日より三日間  
十一月十五日より三日間  
十一月二十日より三日間  
十一月二十五日より三日間  
十二月一日より三日間

# 募集

## 募集

# 江名港無事

## 多賀方部の被害舟二艘に及ぶ

### 損害數千圓の見込

二十三日夜來の豪雨は大雨となり、損害約二千圓位  
平瀧沿岸にも甚威を恐いませの見込、尙目下關形油店  
に午後半に至るに及んでには塩田支那人は現場に出動  
とんと馳す術もなく大自然盛んに放出しを行ひ整理に  
の悪戯の前には今更年ら入復舊に大業の活動中  
爲の遠く及ばざるを知らし  
められた、平瀧では被害  
は左したる事なきも、大津  
濱では二十四日午前一時頃  
益々加はる大風雨の爲にア  
グリ船平安丸は沈没し、大  
名濱方面にも行はれる様  
の最も甚だしきは關形油店  
であるから飼主は鑑札等  
所有の犬が船舶用油店  
附近で野犬との別を判り  
シキリは撲殺に吞されて  
沈没(重油)は行衛不

# 平局現金受

## 拂時間延期

平局現金受  
十一月五日より三日間  
十一月十日より三日間  
十一月十五日より三日間  
十一月二十日より三日間  
十一月二十五日より三日間  
十二月一日より三日間

# 募集

## 募集

本年は本紙(二十五日附)を以て恒  
例に依り休刊になります  
新年號は意匠を凝し讀物豊富に大部  
數を發行する事になつて居ります  
御期待と御了承願上ります  
常磐新聞社  
十一月五日から午後  
六時まで

被害船	船主
神風丸	二隻 (網船) 小野禮一氏
豊來丸	(手船) 水野政次郎氏
第二好徳丸	(手船) 水野政次郎氏
盛徳丸	(手船) 馬上喜一氏
福恵丸	(網船) 御代龜太郎氏
共徳丸	(手船) 田中權次郎氏
清福丸	(手船) 立花雄七氏
網島丸	以上小名濱地船
海準丸	波崎漁船

**年末尾の言葉**  
 昭和十三年十二月十五日、日附新聞で本年の新聞は休刊となり、而して新年の號に全力を注ぎ、明年のスタートを切る事に致し、年未尾の言葉として、過去三年を回顧するに、今年も一津一様に國家を賭けての支那事變の一掃であらう、國家を賭けての物、心動員員は日本帝國として、日本帝國の實力的發見でもあつた、吾人國民は世界に誇らしき優秀なる自覺を振るはるに至つた、永きに渉り、歐戰外交の下に自らを卑下して居つた吾人等は、今次支那事變に依り、優越外交の轉換の契機をも掴み得た、昭和十三年は日本國民の世界的に覇を握り得る國民たる事を、隅々村落迄も満喫させた、この貴重なる体験を十四年度よりは、全國民に實行せよ大陸國策に協力して島國根性より大陸根性へのスタートを切れと指示されたものである、この輝かしい目標に迫つた十四年を迎ふるに當り、過ぐる十三年を無にせず、良き參考となすべきである

後の業績の上に着々と示されて居り、現に本年十月中だけでも前年同月に比し其の契約数が成人保険は八割、小兒保険は三十八割も増加してゐる。従つて簡易保険の重要性とその將來の發展はこの事實によつても、容に想像し得る所であつて、今後長期建設の永い過程を踏まねばならぬ我國としては、本事業のより大なる躍進を望まざるを得ないのである (終り)

**簡保** (一面より續く)  
 簡易保険は去る十月一日から制度の一部が改正され、保費七割まで契約が出来、小兒保険は満一才から加入出来るやうになつた。此の改正は事業の加速度的躍進に伴ひ國民多年の要望を満したものであることは改正

**機械買**  
 常警新聞社  
 電話 139

**電話買度**  
 姓名在社

**天気豫報**  
 今晩 北西の風晴れ  
 明日

**磐城水産株式會社**  
 三井生命保險株式會社 代理店  
 大正火災保險株式會社 代理店  
 魚市場代行機關  
 電話 一四四番

**常警新聞多賀支局**  
 所在地御知らせ  
 電話 一五六番  
 高野 東海

**平屋青果店**  
 野菜に果實  
 店主 吉田 久  
 小名濱町松の中

**開業 産婦人科専門**  
 本院 急患はこの限りにあらず  
 院長 根本 貞雄

**門馬齒科醫院**  
 レントゲン科新設  
 院長 門馬 忠男  
 小名濱町中島

**井坂醫院**  
 性病科 午前宅診  
 産科 午後往診  
 婦人科 入院隨意  
 平市田町  
 電話 五五九

**丸八鐵工場**  
 船舶陸機關 製作 修繕  
 小名濱町築港入口  
 電話 一七五番

**ホライ**  
 カフェ

**小野輪店**  
 各種自轉車、修膳販賣  
 修膳は特に入念懇切に且つ迅速に御勤め致します

**鈴木齒科醫院**  
 院長 鈴木 正  
 小名濱町銀座通り

**小島はきもの店**  
 ゴム靴、ゴム製品 一式並に修膳  
 小名濱町銀座通り

**鈴木齒科醫院**  
 院長 鈴木 正  
 小名濱町銀座通り

**小野輪店**  
 齒科一般 口腔外科  
 小名濱町本町四〇